



File  
04

<http://www3.coara.or.jp/~lantern/>

## 株式会社宇佐ランタン

- 所在地：宇佐市橋津29-4
- TEL：0978-37-1584
- 事業内容：ちょうちん製造卸
- 雇用人数：健常者6人 障がい者9人
- 沿革：1973年 会社設立
- 1984年 現在地に工場を新設
- 1992年 心身障害者雇用優良事業所として労働大臣表彰
- 2004年 「経営革新支援」認定企業

### 「目標」を持たせることで障がい者が職場に定着 仕事を通して「自信」を付け、「人間力」を向上

#### 現在の障がい者の雇用状況等について

##### ■ 雇用している障がい者の状況

軽度から重度の知的障がい者9人。年齢は18歳から40歳代まで。ちょうちんの基礎であるひご巻き、生地張り、乾燥など全般にわたり担当。「職人技」の域に達する障がい者も。

##### ■ どんな仕事をしているか

健常者よりも知的障がい者のほうが多く働くこの会社では、健常者、障がい者関係なく、同じ作業に取り組んでいる。

ちょうちん作りの要となるヒゴ巻きは知的障がいを持つ従業員が中心となって行っている。またちょうちんの張りから乾燥まで、すべての工程に知的障がいを持つ人が配置され、それぞれの責任において作業をこなしている。



ちょうちん張りの作業

#### 障がい者を雇用して良かった点

こちらが予想していないような、新鮮さを突きつけられる。とても大変なことが多かったのに、とにかく毎日が楽しい。

例えば現在の工場の竣工式の日、会社の隅で女の子たちが固まって泣いていた。どうしたのかと尋ねると「おいちゃん（社長のこと）は頑張って働きやすい工場を作ろうと言っていた。ウソをつかなかったことがうれしい」と言われて、こちらも泣いてしまった。

こちらが心を開いて打ち解ければ彼らも一生懸命に応えてくれる。単調な作業を得意とする知的障がい者の仕事に対する姿勢は、健常者には見られない熱心さがある。

#### コメント

##### ■ 障がい者雇用担当者

生産管理と指導を担当 市丸 勇治さん



彼らに合った仕事を見つけるために、大切なことはコミュニケーション。

また平等に接することが大切。新入社員だけについて構うと、他の子どもたちがやきもちを焼き、そこから社内でのいじめなどが発生してしまいます。車で子どもたちの送り迎えをしながら、彼らと交流し、共に働く日々は本当に楽しいです。

##### ■ 現職障がい者

ヒゴ巻き担当 川野 宏一さん



私はヒゴ巻きを担当しています。ヒゴ巻きはちょうちん作りの土台なので、自分が体調を崩したりして休むと仕事が滞ってしまいます。だから体調管理には気を使っています。会社はとても楽しい雰囲気とても働きやすいです。

プライベートでは、社外の人たちとバスケットボールのチームを作り、08年には大分で国体があります。仲間とともに練習に励むなど、充実した毎日を送っています。



Let's Open up  
the future together  
OITA  
2008

#### プロセス

STEP 1

##### ■ 雇用スタート時の状況・雇用を始めようと思ったきっかけ

1981年に県社会福祉事業団が開設した糸口通商寮の職員と知り合いになった。その方の言った「(障がいを持つ)この子たちはいいものを持っている。それを引き出す手伝いをしてください」という言葉にぐっと心を引かれ、同年に5人を受け入れることにした。



開設当時の様子

STEP 2

##### ■ どんな問題点にぶつかったか

障がい者に対して何の知識もなく受け入れたので、七転八倒の日々だった。5、6年はとにかく何をやっても大変だったように思う。障がい者は仕事の難しさ、厳しさから逃げようとするし、健常者もどう指導していいかわからず、仕事もスムーズに進まず、全員がイライラしていたように記憶している。

STEP 3

##### ■ それに対してどんな改善策を取り、工夫してきたか

###### ①うまくいっているところ

心を開きあうには、「同じ釜の飯」を体験することだと気づき、昼ごはんを妻に作ってもらい、全員で同じものを食べることから始まった。

みんなで昼食の手伝いをしたり、片付けたりするうちに、当初あった見えない壁みたいなものが取り除かれ、打ち解け始めたように思う。



###### ②現在の社内でのコミュニケーション

ソフト面9割、ハード面1割と考えるように、あらゆるコミュニケーションを大切にしている。その中でも遠くからでも見守れるよう、「顔が見える」環境作りを心がけている。

また小学生が社会見学等に来た際には、障がい者が先生となって小学生に指導する体験をしている。そうすることで、障がい者は「自分にも教えられる」と自信が持てるようになり、仕事にも積極的になれる、また人間力が向上していく様子がうかがえる。

###### ③サポート体制

知的障がい者は安心して働ける環境を作ればどんどん効率よく働けるようになる。仕事を覚える、という押し付けではなく、相手に合わせる事が大切。

ハード面では、ちょうちんの型にしるしをつけてセットしやすいようにしたり、ヒゴを自動で型に巻きつける自動ヒゴ巻き機「マキツール」を開発し、障がい者がより働きやすいよう工夫をしている。

ソフト面では、共に働く健常者の理解のお陰で、全員が見守り、必要なときには声かけをするなどのサポートが出来る。



障がい者が作業し易いように、ちょうちんの型に付けられた印